

# 祖師先徳鑽仰大法会

## 伝教大師一千二百年大遠忌報恩法要

### 群馬教区法要奉修



発行日  
令和4年1月1日  
発行所  
高崎市中尾町1261  
TEL.027(362)5620  
天台宗群馬教区宗務所  
発行人  
三浦祐俊  
編集責任者  
今村孝道  
印刷所  
芝入印刷株式会社  
TEL.027(253)4937

令和三年十一月四日、群馬教区多野部浄法寺・伝教大師金色尊像御前にて、教区及び一隅傘下団体共催による、伝教大師一千二百年大遠忌を記念した「第六回伝教大師報恩法要並びに境内清掃奉仕活動」が、教区内住職、檀信徒、伝道師、八十余名参加のもと実施されました。



法要の様子

特に今年は、建立後三十年を経て初めて行われたメンテナンスにより、往時の輝きを取り戻したご尊像前での法要となりました。

報恩法要は、「天台のおつとめ」・伝教大師の生涯とその徳を讃える「伝教大師和讃」をお唱えし、その後三浦祐俊群馬教区宗務所長挨拶、来賓祝辞、宗務総長メッセージ、浄法寺への御燈明料贈呈、緑野智彦浄法寺住職挨拶があり、

続いて大岡玄尚布教師会事務局長に「伝教大師の東国巡錫と教区行脚」と題した法話をいただきました。

大岡師は、伝教大師の足跡を長野県から浄法寺まで辿るにあつたの東山道の調査と、風雨



八十余名の参加者

にたたられての実際の行脚の苦労等話をされました。

休憩の後、境内の見学と清掃活動を行いました。境内は広く、由緒ある建物・塔が点在し、ご尊像と同じく修復された相輪様を興味深く見学し、伝教大師や道忠禪師の時代の規模を彷彿させるにふさわしい名刹であることを再認識していました。

#### 年頭のごあいさつ



群馬教区宗務所長 三浦 祐俊

新年あけましておめでとうございませう。麗しき平和を重ねていく新しい時代、令和四年の希望に輝く新春を迎え、檀信徒の皆様にはご清祥にてお過ごしのことと拝察慶賀申し上げます。

一昨年より、世界中の人々が新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大なり小なり受け、自粛が余儀なくされたい人に会えず、もどかしく感じた方もいるでしょう。また、家族一緒に過ごす時間が多くなり絆が深まった方もいるでしょう。人と人の繋がりが見直される機会が多くなされたことと存じます。

そして、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、罹患された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、日々医療の最前線で患者さんの治療に尽力されている医療従事者の皆様に、心から深く感謝を申し上げます。

さて、昨年は天台宗で展開しております十年に亘る祖師先徳鑽仰大法会の掉尾を飾る祖師大師様の一千二百年大遠忌御祥当の年に当たり、教区内御寺院の御寄付により多野部浄法寺金色尊像「伝教大師巡錫之像」のメンテナンスを行い、建立より三十年という年月を経て金色の莊嚴を取り戻され、併せて、境内に建つ相輪様の補修も行いました。そして、七月には住職八十名、十一月には檀信徒八十名の御参加を賜り、

宗祖大師様のご遺徳を偲び報恩謝徳の心を込めて、大遠忌群馬教区法要が勤められましたこと誠に有り難く、教区内皆様に心より御礼感謝申し上げます。

日々変化する新型コロナウイルス感染症状況を踏まえ、祖師先徳鑽仰大法会実施期間が令和五年三月三十一日まで一年間期間延長となり、愈々本年総結願にて一区切りとし、引き続き令和八年完成予定の国宝比叡山根本中堂大改修落慶へと進みます。

群馬教区では、昨年度に疫病退散「いのり×まもり」のポスター・チラシを全教区へ配布しました。本年度も同様に新型コロナウイルス対策を兼ねた宗祖大師様のお姿お言葉で

作成したポスター・チラシを教区内寺院へお配り致しましたので、是非ご覧頂ければ幸いに存じます。また、様々な情報を皆様へ発信致したく、使いやすくなりやす群馬教区ホームページ開設に向けて準備しておりますので今暫くお待ち下さい。

群馬教区並びに各種団体においては、緊急事態宣言発令・まん延防止等重点措置適用・群馬県独自警戒度四以上、いずれの場合も事業等が中止・延期・縮小となり誠に残念ではありますが、今後も気を緩めることなく、関係各位と充分協議のうえ適切に対応する所存でございます。

皆様におかれましては、今こそ、宗祖大師様のご精神を体して「己を忘れて他を利する」「一隅を照らす」の旗印のもと助け合い支え合い、そして、季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行を防ぐため、「新しい生活様式」の実践にてお過ごし頂き、新型コロナウイルス感染症の終息と風雨順時ウイリス感染症の終息と風雨順時

一昨年・昨年と、コロナ禍による諸事業の中止、縮小、外出の抑制等があり、会員皆様も不自由な生活を強いられた年でした。今年も、まだ先の見通せない一年となりそうですが、コロナに罹患せぬよう注意して生活下さい。

昨年六月四日は伝教大師最澄上人の没後一千二百年の祥当年であり、群馬教区でも規模を縮小して鬼石町



群馬教区 檀信徒会連盟会長 神宮 直仁

新年あけましておめでとうございませう。檀信徒皆様と輝かしき令和四年を迎えられることを喜ばしく思います。

今年も不安と心配が予想されます。どうか、皆様には健康で幸せな一年を送られますようご祈念申し上げます。

# 祖師先徳鑽仰大法会

## 群馬教区記念事業

### 伝教大師像 『令和の大修繕』

#### 伝教大師像建立の経緯

今から三十年以上前、天台宗では比叡山開創一千二百年記念の慶讃事業が展開されていました。

群馬教区内では記念事業の掉尾を飾る物として「形のある物」を残したいという要望が起り、当時の轟光順宗務所長を中心として、事業の検討が為され、伝教大師東国巡錫の地である鬼石町（現藤岡市）浄法寺に伝教大師像を建立したら良いのではないかと案が浮上りました。

提示し、像高四・五m（地上高八・五m）のブロンズ像で金色とし、富山県高岡市の梶原製作所に製作を依頼し、完成までの間、西村師の監修は数度に及びました。

平成二年十月三十日、浄法寺に九十六歳の山田座主猥下を大導師にお迎えし、教区住職方の出仕と二千七百五十四名に及ぶ檀信徒の参加により大師像の開眼法要が執り行われ、併せて「一隅大会」を開催し、決算額は四千万円を超えました。

一方、座主猥下は前夜の懇親の席で「天台宗にとって、大恩のある道忠禪師のお墓参りをしたいが、その墓所が不明なのは大変残念である。教区の皆さんで是非探して頂きたい」と切望されました。



慈光寺開山塔

その後、埼玉県ときがわ町の慈光寺開山塔が「道忠禪師墓所」との伝承を得て、猥下のお言葉にお応えすることができました。また、浄法寺相輪様の側には「道忠禪師供養塔」が設置されています。

大師の願いは、日本の六ヶ所に、法華経各一千部八千巻を納めた塔を建て、国家安泰を祈り、実現するもので、経の書写と塔の建立に道忠禪師の弟子達の協力を多に受けて実現し、栃木県の大慈寺と鬼石町の浄法寺に相輪様が



道忠禪師供養塔

建立され、この完成に会わせて大師の東国巡錫が行われたと言われています。

そして、東国巡錫一千二百年にあたる平成二十九年、教区の回峰行者等が、教区有志の筆になる法華経を背負って、信濃神坂峠から浄法寺迄の二・三〇kmを踏破し、大師巡錫の足跡を偲んだことは、まだ記憶に新しいところです。



大慈寺相輪様

今回、教区檀信徒と住職方の、天台宗と大師を中心とした信仰の賜物である尊像と相輪様が修復を終え、往時の輝きを取り戻したことは、建立に尽力した方々の信仰の力に敬服し、思いを致す上で、誠に意義深いものがあります。

#### 伝教大師金色尊像の 保守メンテナンスと 相輪様(六所重葺)の補修について

群馬教区では、伝教大師一千二百年大遠忌を迎えるにあたり、建立から三十年が経過し、塗装状態が劣化している浄法寺「伝教大師金色尊像」の保守メンテナンス及び相輪様の修復整備を実施しました。

整備にあたっては、教区内各寺院のご協力を仰ぎ、お寄せいただいた浄財

# 謹賀新年

- |              |            |
|--------------|------------|
| 天台宗群馬教区宗務所長  | 長福寺住職 三浦俊  |
| 天台宗宗議会議員     | 満勝寺住職 原徳明  |
| 天台宗群馬教区議員    | 常圓寺住職 綾小路  |
| 天台宗群馬教区顧問    | 遍照寺住職 長谷川  |
| 天台宗群馬教区顧問    | 西光寺住職 谷川   |
| 天台宗群馬教区顧問    | 光巖寺住職 田中   |
| 天台宗群馬教区顧問    | 妙見寺住職 小川   |
| 天台宗群馬教区宗務副所長 | 龍藏寺住職 眞木興  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 三光院住職 安田孝  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 金藏院住職 藤田孝  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 正徳院住職 井田善  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 聖徳院住職 龍井隆  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 龍性院住職 小葉照  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 藥王院住職 千葉照  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 恩行寺住職 竹村興  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 萬福寺住職 小出貴  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 光琳院住職 林祐   |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 淨土院住職 宮崎進  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 妙音院住職 稲岡法  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 源正院住職 額綱寛  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 眞光寺副住職 都玄恭 |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 龍泉寺住職 小山胤  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 正圓寺住職 鈴木英  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 寶禪寺住職 高橋靖  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 正觀寺住職 觀月真  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 永徳寺住職 小林順  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 吉祥寺住職 加藤樹  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 福泉寺住職 橋本順  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 隨應寺住職 桑原順  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 慈照院住職 村中邦  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 法蓮寺住職 藤裕公  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 明聞寺住職 青柳裕  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 林倉寺住職 西興仁  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 法森寺住職 三浦寛  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 金光寺住職 平泉人  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 延命寺住職 寺慶厚  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 實相院住職 大寺行  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 榮昌寺住職 内岡尚  |
| 天台宗群馬教区宗務主任  | 華藏寺住職 藤井幹  |

により保守メンテナンスを行いました。

■ 伝教大師御尊像について

(一) 整備前状況

建立から三十年が経過し、全体に塗装が薄くなり、尊像表面の塗膜が、かろうじて付いている状態で、特に尊像正面は、頭巾とお顔、胸のお持物にかけて、黒い線状の汚れが多数付着し、お大師様が涙を流しているようにも見受けられました。



汚れた尊像のお顔

置すると、目に見える汚れが増え、やがては塗膜が剥離し、尊像本体の疲弊を招くことが予想される」とのことでした。

(二) 実施した保守メンテナンスの作業内容

尊像周囲に屋根付きの足場を組み、尊像全体の表面を研磨し、汚れ及び緑青を落としました。次に、尊像にベースとなる純金色塗料を塗装し、バーナーにて焼付けて塗料を



汚れを落とす



仕上げ



銘板の完成

また、上記と並行し、尊像土台にある銘板三枚の清掃と再塗装を実施しました。



補修作業

使用の塗料は、三十年前建立当時の物に比較すると、格段に品質が上がっており、修復後、十～十五年は美しい色彩を保つと見込まれます。

■ 相輪様について

(一) 整備前状況 本来の相輪様は、八一七年に完成していますが、現存の相輪様は一六七二年に再建され、塔身部には、造塔に結縁した多くの人々の名前が刻印されています。



複製された蓮弁

一九一五年には台石が修理されています。相輪様頂頭の蓮華及び宝珠部分に、汚れ・へこみがあり、蓮弁の剥落及び欠損がありました。



蓮弁取付完了

(二) 実施した補修作業内容 欠損していた蓮弁を新調すると共に、剥落した蓮弁を再塗装し、高所作業車を使用して、相輪様頂頭に取り付けました。



相輪様の全容

■ 昨年は伝教大師一千二百年大遠忌の年なのに

群馬教区布教師会会長 堀越 教之



昨年令和三年の話です。伝教大師一千二百年大遠忌

記念を受けて、天台宗群馬教区檀信徒連盟及び伝道師会連盟の総会研修会の研修において、『伝教大師和讃』を唱えた後に、この和讃の言葉を、群馬教

区布教師会の立場として講義を依頼されておりました。しかし、新型コロナウイルス感染症流行の状況となり、総会研修会は中止となってしまったのです。そこで、研修会で講演する内容を、ここに文章で述べさせて頂きます。和讃の最後の四句は次のとおりです。このことを中心にして講演をさせて頂く予定でした。

- 一 帰命 稽首す 吾が大師 『帰命』とは梵語ナマス(Namas)から出たもので、「生命をささげて、お釈迦さま又は、仏に帰依いたします」の意味です。次に『稽首』とは、頭が地につくまで体を屈して、礼拝する」という意味でしょう。『吾が大師』とは、伝教大師最澄さまです。二 法の燈火 伝えては 『法の燈火』とは、「仏さまと、仏さまの教えをともしびとして伝えては」となります。三 後の仏の 御代までも

この章の意味は、「現在だけでなく、後の仏の時代までも」となります。四 慈悲の護念を垂れ給え 『慈悲』の「慈」は、いつくしみです。『慈悲』の「悲」は、かなしみを取り除くこととでしょう。『護念』とは、「仏、菩薩、天界が、仏教に帰依する人々を守ってくれる事です。以上の事を纏めますと、次の意味になるでしょう。 「命をささげて、お釈迦さまと仏さまに帰依いたします。 頭が地につくまで、体を屈して礼拝いたします。 吾が伝教大師最澄さま。

仏さまと仏さまの教えを燈火します。 後の仏の御代までも、慈悲の慈はいつくしみ、悲はかなしみをとりのぞき、 仏、菩薩、天界が、仏教に帰依する人々をお守り下さい」となります。 『伝教大師和讃』でこの部分は、三回唱える部分です。講師として話した 事を書 かせて 頂きました。



- 世良田部 長樂寺住職 高橋秀 下仁田部 昌福寺住職 高橋元 西群馬部 蓮華寺住職 紺野嗣 天台山宗群馬教区各種団体 「一隅を照らす運動」本部会長 群馬教区布教師会会長 龍善寺住職 門倉政 叡山講福聚教会群馬本部本部長 常光寺住職 堀越教 群馬教区寺庭婦人会会長 西光寺住職 谷晃昭 群馬天台青年会会長 禪養寺住職 小長枝 群馬教区保連盟会長 吉岡会理事長 河出弘 群馬教区保育連盟会長 大福寺住職 轟 群馬教区民生児童委員会会長 天王院住職 小 群馬教区延寿会会長 長松寺名譽住職 長 群馬教区延寿会会長 藥王寺住職 千 群馬教区檀信徒会連盟 富岡部 神宮直 副会長 西前橋部 後閑二 同 高崎部 塚閑二 同 伊勢崎部 華藏寺檀徒 川端芳則 同 西群馬部 蓮華寺檀徒 佐藤輝男 同 桐生部 清泉寺檀徒 鈴木清 群馬教区伝道師会連盟 北前橋部 龍藏寺檀徒 嶋田誠仁 副会長 北群馬部 眞光寺檀徒 眞田治 同 桐生部 善光寺檀徒 持田昭二 同 南前橋部 天王院檀徒 今泉誠 同 北前橋部 善光寺檀徒 持田昭二 同 北群馬部 眞光寺檀徒 松村伸一

シリーズ群馬の寺々 第四十九回

北群馬郡 威徳院 光運寺 住職 船戸 晃章

当寺は渋川市行幸田にあり、寺伝では江戸時代初期の慶安年間に齋秀和尚によって創建されたと伝えられる。本尊は阿弥陀三尊。

その昔、温泉が湧いていたことから『湯之上村』といい、地元の人からは『いのえ』と呼ばれており、光運寺の山号も大正までは湯之上山であった。

本堂をはじめ北向観音堂と秘仏の荒神堂、経蔵、鐘楼堂や飛び地境内に湯前薬師堂がある。観音堂の本尊は、西之町の



阿弥陀三尊を祀る本堂

寺山にあった

峻嶺庵（昭和十七年廃庵）の本尊を勧請したものであり、信州別所の北向観音を招請したと伝えられる。毎年一月六日には、北向観音達磨講があり、縁起達磨をもとめて隣住民で賑



北向観音堂

渋川市行幸田八九六



飛び地境内の湯前薬師堂

わっている。また、近々山門の新築工事を始める予定となっており、行幸田唯一のお寺として檀信徒をはじめ近隣住民で護られ、親しまれているお寺である。

群馬天台青年会 御菓鷹山慰霊法要・コロナ病没者慰霊法要 奉修

群馬天台青年会は、令和三年十月十三日多野郡上野村の慰霊の園において、長諒順会長が御導師を務め、会員十名出仕のもと、昭和六十年八月十二日に起きた御菓鷹山日航機墜落事故の慰霊法要を執り行い、犠牲者の方々のご冥福をお祈りしました。

また、十月十九日には南前橋部光琳寺（林祐進住職）において、コロナ病没者慰霊法要並びにコロナ退散元三大師護摩供が執り行われました。

御本尊阿弥陀如来御宝前にて、光琳寺法嗣林祐基師が御導師を務め、新型コロナウイルス病没者慰霊常行三昧を厳修すると同時に、小出行観副会長がコロナ退散元三大師護摩供を修し、新型コロナウイルスの早期終息を祈願しました。



祈禱護摩供並びにコロナ病没者慰霊法要（光琳寺）



御菓鷹山慰霊法要（慰霊の園）

一宗功労者表彰

住職五十年勤続

昌樂寺住職

綾小路 乗正

薬王寺住職

千葉 照勲

石原寺住職

千葉 照光

住職三十年勤続

林倉寺住職

西林 乗仁

常圓寺住職

綾小路 乗俊

妙音寺住職

稲岡 亮順

大音寺住職

瀧川 克磨

法隆寺住職

大須賀 亮仁

観音寺住職

角田 興憲

世音寺住職

小方 文憲

正圓寺住職

山本 堯光

大光寺住職

六本木 祐剛

一宗公職歴任

安養院住職

市川 祐純

布教功労

極樂寺住職

小林 玄順

妙音寺住職

稲岡 亮順

新住職紹介

令和二年 十一月九日



下仁田部 永壽寺 大河原 覚俊 師

令和三年 九月一日



沼田部 華藏寺 齋藤 祥駿 師

令和三年 十一月一日



沼田部 延命院 高山 廣俊 師

示寂

令和三年十一月一日

下仁田部 野牧寺

細野 順誠 師

予告

令和三年度

「一隅を照らす運動」年次大会

檀信徒研修会

令和四年三月三日（木）

群馬県農協ビル（JAビル）